

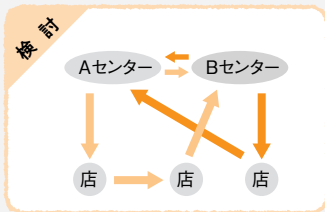
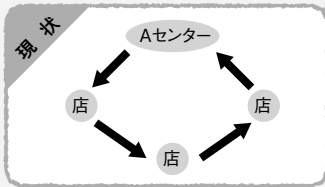
CO₂削減に向けた取り組み



輸送経路の短縮

日本では2030年度には温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減、2050年度に完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めています。また、運輸に関わる2030年度の数値目標としては2013年度比で35%削減が掲げられています。グループもこの目標に向け取り組んでおりますが、まだまだ目標数値には達していない状況です。

残る温室効果ガス削減の実現に向け、グループ内だけの物流取り組みから、他社物流とのマッチング（共同配送）の実施による、トータル輸送距離の短縮を図り、温室効果ガス排出量削減に向け舵を切ってまいります。



各々が配送（2013年度実績）

/日	生鮮便	日配便	小計
走行距離	11,284km	6,418km	17,702km
CO ₂ 排出量	1,580kg	899kg	2,478kg
平均積載率	44%	74%	59%

共同で配送（2023年度実績）

平均/日	生鮮便	日配便	小計
走行距離	11,931km	6,828km	18,759km
CO ₂ 排出量	1,671kg	956kg	2,627kg
平均積載率	68%	72%	70%

モーダルシフト（輸送経路の転換）の推進

年々高騰を続ける輸送コストとCO₂排出量の削減のため、フレスタではモーダルシフト（輸送経路の転換）に取り組んでいます。



青果物を中心に、トラックから鉄道輸送へ切り替え環境負荷の低減を実現しています。



▲「ラルズ・フレスタ・原信・CGC グループモーダルシフト推進協議会」での取り組みが、「令和6年度 第1回モーダルシフト優良事業者大賞表彰」の「革新的取り組み部門賞」を受賞

目的

- 1). 高騰を続ける輸送コスト削減と二酸化炭素排出量削減の両立
- 2). 青果物を中心とした品目ごとの計画、実績検証、適正輸送方法の共有、蓄積横展開
- 3). 縮小を続ける生産者規模に対し小売り流通が輸送手段を産地と共に決定する調達物流、流通経路の簡素化、見える化、品質の向上

モーダルシフト推進協議会全体実績 （JR5 コンテナ換算）

2023年度実績 2,038台（前年比121%）
CO₂排出削減量 841トン
2024年度計画 2,200台（前年比108%）

トラックから
鉄道輸送への
切り替えによる
CO₂削減率は
68%

フレスタ輸送実績（輸送品目）

2023年度実績 43台
（中国ジジシー、(株)プロ・アグリ含む）

北海道産野菜、
野菜水漬、さつまいも、
ごぼう、みかん、
果実加工品
（ミックスナッツ）
等